令和８年度

関市総合教育会議会議録

（令和８年７月２４日）

関　　市

令和８年度関市総合教育会議

１　日　時

開会　令和８年７月２４日（水）午後４時００分
閉会　令和８年７月２４日（水）午後５時１６分

２　場　所

関市学校給食センター　３階会議室

３　構成員で出席した者

市長	山　下　清　司
教育長	森　　正　昭
教育長職務代理者	清　水　　徹
教育委員	米　山　英津子
教育委員	末　松　桂　子
教育委員	西　部　美　晴

４　説明のために出席した者

教育委員会事務局長	岩　井　裕　子
教育総務課長（会議録書記）	藤　井　芳　文
教育総務課主幹	師　入　泰　久
学校教育課長	西　川　正　人
学校教育課主幹	松　田　和　千
学校給食センター事務長	井　藤　明　美
学校給食センター課長補佐	坪　井　伸　子

５　出席した事務局職員

教育総務課課長補佐	山　田　牧　広
教育総務課係長	赤　尾　久美子

６　傍聴者

０名

７　協議事項

（１）学校給食センターの食物アレルギー対応について
（２）関市立小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
（３）その他

議事内容（概要）

○岩井教育委員会事務局長
　定刻となりましたので、ただいまから令和８年度関市総合教育会議を開催いたします。
　はじめに、山下市長からご挨拶を頂きます。

○山下市長
　皆さんこんにちは。今日は暑い中、給食センターまでお越しいただきましてありがとうございます。
　総合教育会議は、本来なら年に１度の開催でございますが、教職員の業務量管理・健康確保措置実施計画を総合教育会議で策定をしなければならないとあり、この時期に１回目を開催させていただきました。
　来年の１月に、第２回を行わなければならないとの事で、よろしくお願いしたいと思います。
　本日のテーマが学校給食に関する事でしたので、折角なので、給食センターを見て頂きたいと、急遽、私が提案いたしまして、先程暑い中、調理場内を視察いただき、ありがとうございました。
　本日、市内の中学生で野球やってる子たちが、全国大会行くということで面談をいたしました。
　岐阜市から引っ越してみえたお母さんが、子ども達が関市給食はおいしいと言って食べていると言ってくださり、本当に嬉しくて、是非、口コミで岐阜市のママ友にお伝えください、とお願いをしておきました。
　給食といえば、ご承知のように、今年度から小学校の給食費の負担軽減、いわゆる無償化ということが、国が舵を切って進んでいます。
　関市にあっては、給食の負担軽減、無償化にとどまらず、給食を食べられない子ども達も含めて、しっかりと手当をしようと考えています。
　だから給食費相当分、多分小学生だと年間５万円ぐらいだと思いますが、子育て支援のお金だということで、給付をするということになりました。
　更には、中学校も同様に給食費は無償で、給食を食べてない子どもについては同じように相当額を、手当として給付するということを、今年から始めています。
　昨年からは、保育園、幼稚園の給食費も、無償化してるということもあり、そういう意味で言うと、保育園、幼稚園から小学校、中学校まで関市にあっては国の支援はありますけども、市としては、中学校まで手当をしているという事でございます。
　親の金銭的な負担としては、軽減されておりますが、やはり問題は、先程のお母さんの話になるのですが、給食を食べた子ども達が、美味しいと言ってくれる、そしてしっかりと食べて体を作ってくれる、そんな給食を提供しないといけない、と考えています。
　地元の食材を使ったり、あるいは話題になってます、ジビエといいますか、有害鳥獣に指定されている獣を有難く頂くということで、年に３回、ジビエ給食を提供しています。そのような、関市らしい給食を提供出来て

いるのかな、というふうに思っています。
　これを更に、より良い給食を提供するために、また違うボールを給食センターに投げているところでございます。
　本日は、給食のことと、先ほど申し上げました、教職員の働き方を改革するための計画について、ご審議いただきたいと思います。
　どうぞよろしくお願いいたします。

○岩井教育委員会事務局長
　この会議は、市長が主宰する事になっています。
　従いまして、これ以降の議事進行につきましては、山下市長にお願い致します。
　よろしくお願いいたします。

○山下市長
　それでは、 次第に従いまして、協議事項に移ります。
　最初に１番の「学校給食センターの食物アレルギー対応について」を議題とします。
　それでは、事務局から説明をお願いします。

○井藤学校給食センター事務長
　関市学校給食センターの事務長の井藤と、管理栄養士で課長補佐の坪井と申します。
　本日は、児童生徒のすこやかな成長を支える学校給食について、特に「安全・安心な給食の提供」と「きめ細やかなアレルギー対応」に焦点を当て、関市学校給食の現状と今後の課題についてご説明いたします。
　それでは着座にて説明させていただきます。
　本日の議題としまして、こちらに挙げております４つの項目の説明を通じて、関市学校給食センターが取り組む安全管理の徹底、特に食物アレルギー対応における現状と課題についてご理解いただき、今後の学校給食のさらなる発展のため、忌憚のないご意見を賜りたく存じます。
　始めに、簡単ではありますが、関市学校給食センターの概要についてご説明いたします。
　関市学校給食センターは、日本の伝統的な食文化である「和食」を中心とした学校給食を提供するとともに、安全・安心でおいしく、栄養バランスの取れた学校給食を児童・生徒に提供しています。健康増進を図ることにより、食の大切さや感謝の気持ちを育み、食育を通じて児童・生徒の成長に寄与する学校給食センターを目指しています。
　令和８年度は関市内小中学校全２５校を対象に、１日あたり約６，６００食提供しています。
　昨年度は約６，８００食でしたので、少子化により年々ゆるやかに減少してきています。
　給食関係職員は、関市職員５名、うち１名は会計年度任用職員、岐阜県職員の栄養教諭２名と学校栄養職員１名、調理配送等は委託契約しており、

８月から５年契約で新しい事業者に変更となります。
先ほどは、暑い中、場内を見学していただきありがとうございました。
設備の特徴につきましては、場内を見学いただきましたので省略させていただきます。
学校給食センターでは、食材の調達基準、調理工程での衛生管理、栄養バランス、食育への取り組みや緊急時対応について、徹底して取り組んでいます。
また、学校給食センターを運営にするにあたり、各種委員会や部会を開催しています。
これらの取り組みを通じて、子どもたちが毎日楽しみにしている安全・安心でおいしい学校給食を継続的に提供しています。
学校給食センターの運営に関する事項を協議する委員会として、学校給食センター運営委員会を設置しており、年１回の総会を始め、各部会を開催しています。
学校給食アレルギー対応検討委員会では、食物アレルギーのある児童生徒が、安心して学校生活を送ることができるように、各学校の実情に沿った適切な運用がなされていることを検証し、基本的な方針等を審議します。学校給食食物アレルギー対応食判定委員会では、食物アレルギーのある児童生徒の状況等を把握し、学校給食におけるアレルギー対応食の提供を総合的に判断します。
最後に、アレルギー対応食の実施状況です。
令和３年９月より鶏卵除去食を開始、令和５年９月より乳・乳製品除去食を開始しております。いずれも、安全を考慮し、対象は小学３年生以上としています。
これらの取り組みを通じて、子どもたちが毎日楽しみにしている安全・安心でおいしい学校給食を継続的に提供しています。この後から、本題の食物アレルギーに関する内容となりますので、管理栄養士の坪井が説明いたします。

○坪井学校給食センター課長補佐
ここからは、食物アレルギーのある子どもの実態について説明させていただきます。
関市の食物アレルギーの基本方針です。
食物アレルギーは、食物を摂取した際、身体が食物に含まれるたんぱく質等のアレルゲンを異物として認識し、自分の体を過剰に防御することで不利益な症状を引き起こされることをいいます。
学校及び、学校給食センターでは、１番に食物アレルギーのある児童生徒にも、個々の状況等に基づき、医師の指示に従い、安全性を最優先にした上で学校給食を提供し、学校では「学校生活管理指導表」の提出を必須としています。
２番に保護者、医療機関、学校、学校給食センターが相互に連携、協力し、対応しています。
３番に学校及び学校給食センターの施設整備、人員等を考慮し、可能な

範囲においての対応としています。
　４番として、対応方法は、学校給食アレルギー対応検討委員会で協議の上、決定しています。
　特定の食物でアレルギー症状を起こす児童生徒も、心身ともに健全な学校生活を送ることができるようにすることを目指しております。
食物アレルギーの原因となる主な食材です。
　特定原材料とは、食物アレルギー症状を引き起こすことがあきらかになったもののうち、特に症例数や重篤度から表示する必要性があるものです。令和８年４月に消費者庁の改訂があり、特定原材料に準じていたカシューナッツが症例数の報告が増加したため８品目から９品目となりました。特定原材料に準じる２０品目では、新たにピスタチオが入りました。
　そのため、合計２９品目のアレルギー原材料となっており、保護者や学校に配付する原材料明細一覧表にも表記しています。
　学校給食における食物アレルギーの原因となる物質はとても重要性をもっています。
　アレルギー症状の中には、アナフィラキシーショック等、生命にかかわる症状を引き起こす可能性があることから、各学校においても、こうした事故が起きないように、正しい知識をもち細心の注意を払いながら適切な対応ができるように、年度初めなど、全職員に対し、エピペン研修・アナフィラキシーを想定した緊急対応訓練も実施しています。
　関市の食物アレルギーのある児童生徒数の推移です。
　折れ線グラフは児童生徒の割合を表しています。
　小中ともに食物アレルギーのある児童生徒が増加傾向です。
　令和７年度の食物アレルギー有病率は、６．６％で、子どものおよそ１５人に１人でした。
　公益財団法人日本学校給食会が２０２２年に実施した全国調査でも、小中高生の食物アレルギー有病率は６．３％となっており、子どものおよそ１６人に１人となり、この傾向は全国的な傾向となっています。
　また、アレルギー学会の資料によると、乳幼児に多い鶏卵、牛乳、小麦のアレルギーは３歳までに５割、小学校就学までに７、８割が治ると言われています。一方ピーナッツ、ナッツ、甲殻類などは自然に治る可能性は１、２割程度と考えられています。
　食物アレルギーの中にも、命に関わる重篤なアレルギー症状「アナフィラキシー」の既往をもっている児童生徒に、アドレナリン自己注射薬の「エピペン」が処方されます。
　こちらのグラフは、関市でエピペンを携帯している児童生徒数の推移を表しています。
　表からは、増加の傾向を示していることがわかります。この中には、学校給食では提供しないピーナッツでの処方も含まれています。
　子どもの「アナフィラキシー」の原因はほとんどが食物であり、どの学校においても緊急事態が起こりうる状況にあり、全国の学校におけるエピペンの使用実態も増加していることから、学校という場所は通常の生活より、高い確率でアナフィラキシー事故が起こりうる「ハイリスクな現場」

であると強く認識しなければならないことがわかります。
そのため、学校給食センターでも、学校給食提供の材料に気を配ります。最近の傾向です。
こちらは、学校で日ごろ直接かかわってみえる養護教諭の話では、最近の傾向として、魚類や果物類にアレルゲンのある児童生徒が増えているとのことでした。
学校が把握されている関市の児童生徒の２９品目以外のアレルゲンです。
ここからは、関市における食物アレルギー対応について、関市の現在の状況をお伝えいたします。
関市の食物アレルギー対応については、令和２年１月に策定した「学校給食における食物アレルギーへの対応マニュアル」を基本に、食物アレルギー対応食の申込みから喫食に至るまで具体的な手順について、対応の明確化と共通化を図り、事故防止につなげています。
このマニュアルは、学校給食アレルギー対応検討委員会で協議し改訂しています。
市内小中学校にも周知しています。
学校給食で対応するために、実施基準を設けています。
対応の分類は、１番にアレルゲンの種類が多く、微量でも反応する重篤なアレルギー症状をもつため、学校給食の申し込みをせず、家庭からの弁当を持参し、学校で対応する方法。
２番にアレルゲンの含有情報を「学校給食献立及び材料表」と、「学校給食加工原材料の明細」等に記載し、保護者に配付することで、その情報に基づいて料理から取り除いて食べる、または、食べる料理、食べない料理を決めて、学校に報告し、学校において、教職員の周知のもとに対応する方法。
３番にアレルゲンを除去することが困難な料理によっては、一部の料理の代わりに弁当を持参する方法。
４番として、アレルギー対応食を提供する方法があります。
児童生徒をよく知る各学校で、保護者の方と面談し、情報をよく交換された上、校長先生が「食物アレルギー対応委員会」を開催して学校での対応を決定します。
４番のアレルギー対応食での対応を決定した場合には、学校給食センターへアレルギー対応食希望申請を行います。
学校からアレルギー対応食希望申請があると医師から食物アレルギーと判断され、アレルゲンが特定されており、医師の指示において家庭でも食事制限をしている。
微量でもアナフィラキシーショックを発症するような重篤な症状ではない、小学３年生以上の児童生徒という要件のもと、学校給食食物アレルギー対応食判定委員会により判定します。
小学１年生、２年生の低学年については、アレルギー症状のある児童が、自分の意志で喫食するしないを判断したり、周りに伝えたりすることが困難なことなどによる誤食を回避するため、対応食の実施は見送ることに学

校給食アレルギー対応検討委員会で決定しました。
　提供できると判定された児童生徒に、鶏卵、または乳・乳製品の除去食を提供しています。
　現在は、鶏卵除去食２８人、乳・乳製品除去食１６人に提供しています。他にも、乳・乳製品による食物アレルギーや乳糖不耐症など食物アレルギー以外の疾患のある児童生徒が飲用牛乳からお茶への代替を希望する場合、お茶を提供しています。
　ここから学校給食提供までの流れを説明します。
献立案作成では、特定原材料９品目を使用しない学校給食として、低アレルゲン献立の日を月２回以上実施するように意識して作成しており、献立表には「関はもみん」で示しています。
　令和７年度の実績としては、月平均して５．８回提供が行われました。また、アレルゲンが重ならないようにし、まったく学校給食が食べられないことがないように考えています。
　献立作成部会では、ＰＴＡ代表の方、学校代表の給食主任の先生や、事務局で検討を行います。
　担当栄養教諭より献立案について説明を行い、その内容について検討していきます。
　家での様子や学校での様子などの知らない姿を共有し、献立にも生かしていきます。
　一般物資選定委員会では、献立作成部会で検討した献立を基本に、使用する材料を選んでいきます。
　調味料等は半年単位で選定し、一般物資は毎月行います。
どの商品が安全、安心な材料か、価格、生産地、品質、包装、味、原材料の配合だけでなく、アレルゲンなどを確認し検討した商品を選びます。
　また、特に、学校給食での楽しみの一つにはデザート類がございます。特定原材料にあたる９品目のアレルゲンを含まないデザート類を選定することで、多くの児童生徒に提供ができています。
　ただし、食物アレルギー対応の物資は通常商品の１．５倍程度金額も高くなりますので、予算の中でやりくりするには、腕のみせどころの一つとなっています。
　発注では、商品が決定後、業者入札をへて発注していきます。
　献立表、発注書など各種資料、アレルギー対応食の献立も同時進行に作成していきます。
　希望する保護者に配付している「加工品の原材料明細一覧表」には、ここで決定した加工品の原材料の明細やアレルゲン２９品目がわかるように表記しています。
　さらに詳しくコンタミネーションについて知りたい方には、個別での対応を行っています。献立や加工品の原材料明細一覧表はホームページでも公表しています。
　特に、乳製品の混入が目視で確認できないため、学校、学校給食センターとも、ものすごく気を使っています。
　調理場内での対応について、順に説明します。

納品時確認です。物資に誤りがないか確認します。
調理配送等委託事業者は、納品時に発注内容と誤りがないかを検収表とともに確認いたします。
そのため、材料の搬入口に原材料表を設置し、すぐ確認できるようにしています。
次に食材納品業者と共に表示されている原材料の内容に誤りがないかダブルチェックします。
調理配送等委託事業者は、アレルギー対応に関する知識や技術を持つ専門スタッフを配置しています。
対応職員とわかるよう、服装を統一し、ピンク色の服を着用し、視覚的にもアレルギー対応専門の職員と認識できるようにしています。専門の固定した人員で対応することにより、動作に無駄がなく、リスクが軽減しています。
出来上がったアレルギー除去食は、食器も専用容器を使用しています。汁用容器は、汁物やカレーなどに使用します。
おかず用容器におかずを入れ使用しています。間違いなく希望する本人に届くよう、容器にも、名前入りで提供しています。
毎日の献立の写真は、除去食の写真もあわせて、ＳＮＳでも発信しています。
アレルギー専用調理室の内部です。
専用調理室に入室する際にも、その日、乳や卵を扱っている場所を通らないような動線で入室します。
アレルギー専用調理室では、このような調理台が４台設置され、除去食を最大１００食まで対応できる仕様となっています。
乳除去専用、卵除去専用でそれぞれ専用の器具を使用し、使い終わった後も、この部屋の中で、洗浄し、それぞれの専用の乾燥庫にいれ、保管しています。
すべてが、この部屋の中で完結できる仕組みとなっています。
各学校のアレルギー食缶は、専任栄養士、コンテナ納品者とコンテナ確認者のトリプルチェックを行って、該当校のコンテナにつめて配送します。
学校給食センターから、学校に到着したコンテナは、アレルギー対応食とわかるように場所の固定と確認用紙がついていきます
アレルギー対応食の該当日には、児童生徒が食べる前に通常の検食の他に、アレルギー対応食も該当校で検食を行います。
学校における対応を、順にご説明いたします。
アレルギー対応食の配食確認表です。
学校給食センター・アレルギーのある児童生徒の保護者・学校・調理配送等委託事業者が共有している書類となります。
月に２，３回実施するアレルギー除去食の献立に対して、アレルギーのある児童生徒に除去したメニューを喫食するかどうか、学校を通じて確認します。
こちらは乳除去食用で、わかりやすいように水色の用紙を使い、卵除去食用は、黄色い用紙を使います。

視覚的にもリスクをなくし連携しています。
学校到着から本人へ誤配防止のため、主に校務員さん等が対応食を受け取り、学校で決めた職員が、必ず児童生徒本人に直接渡します。
アレルギー除去食を受け取り教室に戻った本人が、担任に報告します。担任は、確実に、専用容器のまま食べているか喫食状況を確認します。
また、教職員の共通理解として、担任が出張等で不在の際は、担当教員に確実に引き継ぐこと、学校給食にかかる食物アレルギー対応の一連の流れを把握することを、お願いしています。
また、本人だけでなく、周りの児童生徒もアレルギーの情報を共有することで、力強い協力者となり、リスクが軽減します。
このように、児童生徒に届くまで、皆様のご協力とご理解で、安全・安心が保たれています。
今後の課題について３つ共有したいとおもいます。
１つめの課題は、自己管理能力の向上についてです。
こちらの表は、令和８年度のアレルギー除去食申請者の内訳です。
ご家庭での対応も大切ですが、高学年になるまでに、食育の中でもアレルギーに対する自己管理能力を高める働き掛けも必要と考えます。
年齢があがるにつれ、親の目も行き届きにくい面がでてきます。
外食や市販品を購入する機会も増え、自分で食品成分表示を正確に読み解き、アレルゲンが含まれていないかを確認する力が求められます。
そして、万が一アレルギー症状が出た場合の自己判断や、エピペンなどの自己注射器の使用、周囲への助けの求め方など、緊急時の対応を自分で判断・実行する力が重要となるため、アレルギーの視点からの食育も大切と考えます。
２つ目の課題は、アレルゲンの原因食品です。
こちらの表は、令和８年５月２１日に行われた市町村教育委員会学校給食担当者会で報告された、令和７年度食物アレルギーの岐阜県内の発症状況です。
報告された２８件のうち小学校１６件、中学校９件、高等特別支援学校３件でした。
アレルゲンの内訳で原因がわかっているものは、乳・乳製品６件、小麦３件、卵２件、木の実類２件で１３件ですが、注目してほしいのは、赤色の部分です。
その他と不明のものを合わせますと１５件あり、原因がわからないアレルゲンの方が多く、いつ、だれが、何が原因で発症するかわからないという状況です。
学校給食センターでは、食品材料の情報を確実に行い、情報提供していくことが大切と考えています。
３つ目に、悪天候等による学校給食中止での献立変更に伴うリスクです。例年、悪天候や学級閉鎖により学校給食が中止される場合、予定献立を急遽変更することがあります。
中止の判断の時間により、メニュー変更が必要となることがありますが、その際は食材の無駄を最小限に抑えるよう対応しています。

学校給食センターでは家庭とは異なり、大量の食材を扱うため、前日に納品することが多く、そのため、給食中止に伴う献立変更が発生すると、すでに納品済みの食材や、アレルギー対応のために事前に確認いただいていた食材の使用日が変更となることがあります。

現在、献立変更があった際は、保護者の方へ「すぐーる」配信で周知していますが、変更から確認までの期間が短いため、特にアレルギーのある児童生徒の保護者の方々が変更内容を確認したことを把握できる仕組みの構築が必要と考えています。

最後に、今後とも子どもたちの笑顔を想像し、安全・安心な学校給食提供が行えるよう努力いたします。

これで関市学校給食センターの説明を終わります。

ありがとうございました。

○山下市長

只今、給食センターの説明がありましたが、ご質問やご意見などいかがでしょうか。給食センターを見学された、感想でも結構ですがいかがですか。

○末松委員

給食センターの見学をさせていただいて、本当にありがとうございました。あれだけ細かく丁寧にやっていただいている事実を、みんなに知って欲しいと思います。先程の安心安全できめ細かな、と仰ってみえたとおりにやられており、素晴らしいと感じました。

一つお聞きしたいのですが、ダブルチェックなど色々な事をしても、トラブルは起きてしまうと思うのですが、今までそのような事はありませんでしたか。

○井藤給食センター事務長

私は就任して２年目ですが、就任してからアレルギーの事故は起きていないです。

給食では無く、学校以外のところでアレルギー症状が起きたという報告を聞いているのですが、学校給食では今のところ出ていません。

○末松委員

下の孫が２歳になったんですが、卵のアレルギーがあって、そうすると家族も本当に気を使うんですね。

結局、少しずつ耐性をつけて、今は食べられるようになったんですけど、アレルギーを持ってる、子どもさんの家族の方とか、対応される方っていうのは、随分、気を使われることを目の当たりにして、本当に有難いと感じます。

それで、自分が現場に居た時は、まだこのアレルギー対応の前だったんですけれど、年度当初に、全部の職員で確認をして手順を確認してもらい、万が一ってことも考えて、確認をして、確認をして、ということ

も行いながら、やっていました。
子ども達が給食を食べて、自分で選ぶ力も大事だってこと思います。
先程ありました、自己管理能力の向上も必要だと思います。
自分も給食で養ってもらって、今があると思いもあり、今は夏休みでお母さん方、給食が無くて、すごく困っていると思うのですが、本当に関の給食おいしいですし、行事食もあり、国際試合がある時は、その国の献立などもあったりして、すごく良いと思います。
これからもきっと子どもたち楽しみにしてると思うので、ぜひ引き続き、おいしい給食をお願いします。
ありがとうございました。

○山下市長
沢山お母さんという話が出ましたが、西部委員、いかがでしょうか。

○西部委員
本当に、夏休みに入って給食の有難さを、すべてのお母さんとお父さんも感じてるんだろうなって思いながら、今日は、お昼用にカレーを作ってきたんですが、私はカレーしか作れないので、カレーにサラダにと言う風に、バランスの良い食事を、毎日、給食という形で、提供していただけている事を、本当に感謝しています。
先程、末松委員も言われた様に、行事食も子ども達が、楽しみにしていて、先日の七夕の時に、星型のコロッケが出たと言って、すごい嬉しそうに帰ってきて、教えてくれました。
やはり給食って、学校生活の中で、とても大事になっていると感じていて、好きなメニューの日は、凄く嬉しそうに学校に行きますし、逆にちょっと給食の量が、自分で調整出来ない時期があって、食べれないから学校に行きたくない、と言っていた時期もあり、本当に学校生活に、親密に関わってる部分だと感じてます。
実際に、アレルギーを持つお母さんの知り合いの方が見えたので、給食のアレルギー対応ってどうですか、と聞いてみたら本当に感謝しかないと仰ってみえました。
以前は、学校の給食費も保護者が負担していたので、このアレルギーがあるご家庭だと、月に何食かは食べられるので給食を頼むけど、残りの日は食べれなくて、お弁当持参していて、みんなと同じ給食を食べれることは嬉しいんだけど、食べられない日の給食費についても、払わないといけない事に、少し不満があると聞いたことがあったので、今は市が、金額的にも負担をしてくれていて、みんな同じメニューを食べれる機会が増えていて、本当にありがたく思ってます。
以上です。ありがとうございます。

○山下市長
清水委員、いかがでしょうか。

○清水委員
　私自身、関給食センターの役員を１０年以上やっているのですが、四半期毎に会議がありまして、ほとんどは経営の話ばかりで、米の値段が上がったとか、給食の提供先も一般企業が多くて、一部、幼稚園があるので、当然こういうアレルギーの話もあると思うんですけが、このような話はあんまり出たことが無く、今回、初めてこのような細かい事を聞きまして、凄く細かい対応をされて、凄く大変だなと感じました。
　それと、保護者の方も大変だな、と思うんですよね。
　メニュー見て、どうするか考えて対応する必要があり、これはある程度のレベルが無いと出来ないんじゃないかな、と思いました。
　古い話をして恐縮ですが、私は市長と同年代ですが、昔はアレルギーとかは無かったですよね。

○山下市長
　そうですね。昔はアレルギーとか聞いた事が無かったですが、今は６．６％がアレルギーとなっており、今の基準ですと当時、何％がアレルギーであったかはわかりませんけどね。

○清水委員
　やはりこの様な対応いただけることで、助かってると思いますので、今後とも、大変だと思いますけど、よろしくお願いしたいと思います。

○米山委員
　失礼します。
　私の孫の男の子で、中学生になった子が、小学校４年生の時に、親戚から頂いた胡桃を食べ始めたんですね、美味しい、美味しいと普通に対食べていたら、段々唇が厚く腫れあがってきて、唇がソーセージの様に腫れ上がってしまって、その瞬間にアレルギーだって、気が付いたんですけど、娘が直ぐにアレルギー薬を持っていて、それを飲ませたら、２０分程度で普通に戻っていたのですが、ああいう場面を家族で見ると、本当にそのアレルギーというものを放置しておいたら、とんでもない結果になると知りました。
　そして、今回こちらで給食センターを、本当に丁寧に説明を受けて見せて頂いて、今までは献立表を見て、ただ良いなあと思っただけでしたが、一つ一つ子どもの前に届くまでに、こんなに時間が掛かっているのを改めて知りました。
　本当に、今日は、勉強させていただきました。
　どうも、ありがとうございます。

○森教育長
　１つ質問よろしいですか。
　１４ページのアレルギー対応食と、１７ページの低アレルゲン献立の違いは何でしょうか。

○井藤学校給食センター事務長
　このアレルギー対応食というのは、月に１，２回程の鶏卵除去食とか、乳製品除去食の事を、アレルギー対応食と言っています。
　決められた申し込みがあり、決定した子に対して提供しているものになります。
　低アレルゲンは、食材自体をアレルギーが少ない食材を選ぶようにしています。

○森教育長
　８ページにある食材とか、１１ページにある食材とかはどういったものになるのですか。

○井藤学校給食センター事務長
　８ページに載っているものは、基本的には出さない食材になります。
　１１ページのものは、最近、アレルギーが増えてきているものになりますが、これを出さないとなると、本当に食材が限られてしまうので、提供するのですが、親さんや子どもに注意してもらう食材になります。

○森教育長
　それを毎食、親がチェックするのも大変ですね。

○井藤学校給食センター事務長
　低学年については、保護者がしっかりチェックしていると思いますが、高学年になっていくにつれて、子ども自身が判断して、食べない様にしている場合もあると聞いています。

○森教育長
　キウイフルーツのアレルギーも増えていると聞いていますがどうですか。

○井藤学校給食センター事務長
　洞戸の名産なので、もっと出していきたいのですが、アレルギーが多いという事で、そんなに出すことが出来ていません。

○山下市長
　他に、何かご意見はよろしかったでしょうか。
　よろしければ、１つ目の議題を終わらせていただきます。
　それでは２つ目の議題に入らせていただきます。
　「関市小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」について事務局説明をお願いします。

○西川学校教育課長

失礼します。「関市小中学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」についてお話しさせていただきます。

令和７年６月の改正給特法を受け、関市が令和７年３月に策定したものです。３月２７日、教育委員のみなさまにご承認いただきました。ありがとうございました。

その後、４月２３日、本計画を関市役所ホームページに掲載するとともに、小中学校の全保護者に「すぐーる」でお知らせしたところです。策定にあたっては、令和６年度の時間外勤務時間や有休消化日数などを調査し、それらをもとに、改善に向けた目標値を設定しました。

また、電話対応時間については、原則、教職員の勤務時間と大きくずれの無いように設定しました。

「２目標」をご覧ください。

１番の時間外在校等時間に関する目標です。

１箇月時間外在校等時間が４５時間以下の割合を１００％にする。

１年間における１箇月時間外在校等時間の平均時間を３０時間程度にする。

ワーク・ライフ・バランスや働きがい等に関する目標です。

年間の年次有給休暇の平均取得日数を１６日以上にする。

令和７年は１４．５日となっています。

ストレスチェックにおける健康リスクの値を７０以下とする。

令和７年は、７３となっています。

教育職員が、児童生徒や保護者との信頼関係の構築や専門性の発揮などにより、生き生きと教育活動に取り組み、働きがいを実感できることを目指す。

毎月の校長会では、各校の時間外勤務時間の平均値や４５時間以下の人数をお知らせし、情報共有しています。それにより、自校で意識しなければいけないことは何かを校長先生方が話し合い、それを学校に持ち帰り、全教職員で取り組もうとしています。

実際、５月は１１校で４５時間以下１００％を達成しています。

４月はスタートダッシュ、６月は修学旅行や期末テスト等でどうしても時間外が増える月です。

多くの教員は「何時の電車で帰る」という働き方が苦手です。これは、産業医の大前先生の言葉です。

今後も「何を、いつまでにやる」という意識を浸透させていきます。

電話対応時間を７時４５分から１７時１５分とする学校が増えつつあります。

以前は、２４時間体制的なところがありましたが、留守番電話が導入されたり、対応時間が限定されたりと、ずいぶん改善してきました。

基本的には、営業時間以外の電話対応がないのが普通の会社だと考えます。

学校で当たり前にやってきたことが、実は社会では当然では無いことに気づき、改めているところです。

「４実施する業務量管理・健康確保措置の内容」をご覧ください。

イ、学校以外が担うべき業務：市費の安全支援者や、学校によっては見守りボランティアで登下校を見守っていただいています。
青パトの皆様が巡回していただいています。
補導された場合の引き取りは、保護者です。
スクールロイヤー２名をフル活用しています。
ロ、教師以外が積極的に参画すべき業務は、新校務支援システムが９月から本格稼働します。
共同学校事務室を整備し、統括１名を旭ケ丘小学校に配置し、市全体の事務職員の業務に対して指導助言していただいています。
９月から平日部活動も地域展開していきます。
ハ、教師の業務だが、負担軽減を促進すべき業務は、市費でわかあゆ非常勤講師を任用しています。
中学校では自動採点システムを導入しています。
市費かがやき非常勤講師、心の相談員、特別支援アシスタントを配置しています。
ＳＣ，Ｓ相、ＳＳＷによる支援を推進しています。
名市大の山田ドクターと連携し、ケース会議にも参加していただきます。７月、金竜小で実施予定です。
２番、学校における措置の推進です。
授業のやりすぎに注意して、教育課程を組んでいます。
また、行事をはじめ様々な教育活動を見直し、精選を図っています。
清掃活動を行わない日の設定、日課の工夫により勤務時間内に会議を終わらせるなどを各校で行っています。
電話対応時間を以前よりも短くして設定しています。
今後も、意識の改革、仕組みの改革の両輪で進めていきます。
学校を訪問していて思うことですが、校長先生をはじめ、先生方の明るさや笑顔は、子どもに反映されていると感じます。
先生方が子どもと向き合う時間を確保し、指導・支援の質がさらに高まり、子どもに力がつくように、そんな支援を、教育委員会として、していきます。

○山下市長
あ
りがとうございました。
ここにいらっしゃる方は、特に教育現場にいらっしゃった２人の方は、昭和の頃と、随分違うな、という印象があるんじゃないかと思いますけど、いかがでしょうか。

○米山委員
今、説明をいただいて、最後に仰ったように、先生の明るさや元気がそのまま子どもに繋がるってことは、昔から変わらないと思います。
その原点が、やはり先生達の仕事がどんどん増えていった。
丁度、私達の頃は、夜中まで仕事やってた経験もあるんですが、あの

時代はなんか、当たり前のようにやるんだという空気でした。
夜中でも、やり切ることが中心でしたけれども、今は、どんどん増えていった仕事を精選しながら、先生達が、普通に仕事ができる環境を作るという事、その事を教育委員会としては、特に大事にする必要があると感じました。
私が退職間際に、先生達に決められた時間で帰りましょうという時期があったのですが、現場の先生たちには、私たちは情熱持ってやっていると言われました。
例えば、養護教諭を例で言うと、１日中、子どもは、先生と相談に来ているが、いつ仕事やるんですか、夜しか出来ません。
朝もやっていけないんですか。どこで仕事をするんですか。
そんなような思いが、管理職に伝わらなくて、管理職の方が先走りしたような時期もあったんですけど、やはり、このような時代になると、養護教諭の先生たちも、色々な先生の協力を得ながら、解決策を得て今に至ってると思います。
本当に、いい環境になってきたと思います。
よろしくお願いします。

○山下市長
末松委員、いかがでしょうか。

○末松委員
教員の仕事って、どれだけやっても切りがない。どれだけでも出来ますよね。夜寝ないでも、間に合わない事をやろうというような働き方をしてきた時代から、子どもの幸せを一番に考えなきゃいけないけれど、自分のやりがいだとか、なんかそういう事に、目がいってしまいがちな事あると思うんですけど、やはり先生達は、子どもに勉強を教えてわかるようにさせたい、子どもが大好きって思って、先生になるのですが、最初の気持ちが、だんだん離れてしまうような危険性があると思います。
それを何のために、学校で子どもに向き合ってるかってことを、やはり忘れないために、今言われた意識の改革、仕組みの改革って、すごく大事な事で、本当に素敵な事だと思います。
今は、世の中が不安定で、自分たちが子どもの頃に比べると、未来がすごく明るくて、楽しみでという事は、ひょっとしたら少ないかもしれないですが、子どもがいつも向き合う、先生達が楽しそうで、生き生きと明るくしている事が、とても大事だと思うんですね。
スクールロイヤーも導入された時は、自分も本当に助けて頂いたし、支援の先生方とか、人を沢山つけて頂いたりする事は、大変有難いことですので、今後ともよろしくお願いします。
ありがとうございます。

○山下市長
清水委員、いかがでしょうか。

○清水委員

２０年くらい前の話ですが、私の後輩の子どもさんが関商工の女子バレー部に所属していて、夜迎えに行くっていうんですよね。当時、関商工は強かったもので、毎日、夜の９時とか１０時になると聞きました。

その時間まで、先生が当然ついてるわけですから、大変だと思ったんですけれども、そういうような働き方というのは、今では考えられないような時代になったと思います。

先ほど仰ったように、先生の元気が無いと、子どもの元気も無くなると思うんです。

やはり時間的には、せいぜい１日８時間が限度かなと思いますので、春休みや夏休みが有り、民間企業とは少し違う働き方にしても、就業時間が８時間を超えるというのは、やはり大変かなと思いますので、是非この様な働き方改革、短い時間で、集中して勤務して、ということが大事じゃないかなと、思っております。

ありがとうございました。

○山下市長

西部委員、いかがでしょうか。

○西部委員

今日説明を受けて、確かに子どもたちの期末テストが、外注というか先生達が作るものから変わってたなとか、以前は、子どもが学校休むと必ず、こちらの勤務とかも配慮して頂いてくださり、５時半過ぎとかに先生から、体調どうですか、というお電話をよく頂いていましたが、最近良い意味で無いなと思っていました。

そんなに心配して頂かなくても、大丈夫なのに、毎回電話くださるなと思っていたので、先生の働き方改革という意味でも、良い取り組みになってきてると思っています。

朝、欠席する時も、今は「すぐーる」で８時までに、欠席しますとするだけで、わざわざ電話しなくても良いので、親としても、負担が減っているし、学校としても確実に把握出来と思いますので、すごく助かってます。

１つだけ、付け加えて欲しいなと思ってるものが、学校に少し相談したりとか、例えば先程の給食の話でも、今日の給食は、これが出るので、食べませんと、チャットじゃないですけど、メールで送れるような機能があったらとか、ご相談したいことが何時ぐらいにお電話しますとか、少しだけお伝えできる機能があると、すごく助かるなと思います。

わざわざ電話するのも、こちらとしても申し訳無いと思いますし、逆に先生たち、どの時間にお電話したら担任の先生に繋がるかがわからないので、そのような機能があると助かるなと思っています。

私自身、普段は仕事もしているので、以前勤務してたところでは、出産後は１２ヶ月間たって戻ってきて、時短勤務とかもない時代で、保育

所に預けて、仕事に来る、仕事が終わったら、もう走って学校に迎えに行くという時代から、時短勤務を国が推奨するようになり、ほとんどのお母さん達が、時短勤務を選択して働いている。そのようなお母さんたちの意識としても、何時には迎えに行かなければならないので、それまでに絶対に仕事を終わらせる、という意識で働いてる方が多いです。

先程の、先生たちの意識改革っていうお話も伺い、絶対変えるぞ、という強い気持ちと、業務量の配分で、先生たちの、休日の充実も図ることでやっぱり子どもたちと向き合っていただく時間も無くなってくるかな、と思いました。

欠席時に、先生から連絡を頂かなくなった、という話もさせて頂きましたが、保護者の中では、このような詳しい話とかを聞く機会が無いので、理解も乏しい部分がありまして、例えば８時になっても学校に電話をしてもいいと思ってる保護者も、多数いると思うんです。保護者側の学校に対する考え方も、変えていかないといけないんだな、と感じました。よろしくお願いします。

○山下市長

この内容は、４月にホームページで公開をされているとの事ですが、ホームページとか覗きに行く人は中々居ないと思うのですが、この内容をコンパクトにして、例えば電話の対応時間をこうだよ、とかは伝わっているものですか。

○西川学校教育課長

ＰＴＡ総会等で、この内容を伝えている学校もあると聞いています。

○山下市長

その辺は、学校対応じゃなくて教育委員会として、ビシッとこの計画によって関市の小中学校は、こうだよって言ってもらったほうが、現場は良くないですか。

○西川学校教育課長

その様な面もあるんですが、時間を原則とすると謳っているので、学校によって若干ちょっと広めにとっているところもあり、一概に言えないところもあるため、難しいところもあります。

市内小中学校、全２５校が、この対応時間ではなく、地域性ですとか、学校毎の諸事情により、違うところがございますので、一斉に言ってしまう事は難しいと考えますが、検討します。

○山下市長

出来るだけ、この事を皆さんに知っていただいた方が、先生の対応としても楽になると思いますので、これを要点だけ、Ａ４用紙に収まるぐらいにして、すべての親さんにお伝えできた方が、良いと思います。

その上で、例えば、うちの学校もう少し時間を融通しますとかを、言

ってもらえば良いのでは無いでしょうか。
　教育委員会としては、原則これでいくという事を、全面的に出してもらった方が、良いのではと思いました。
　その他、その件につきましてはいかがでしょうか。
　私自身、清水委員と一緒で、昭和の前半の人間でございますので、青春ドラマで情熱の先生を見てきた人間なので、ちょっと寂しさも無くは無いんですけど、やはり人が確保できないと、ちゃんと教育を授けられない訳ですから、そして今先生が仰っていたように、教える先生が笑顔である事が大切です。
　この件について、何かを言い忘れた事などありませんか。
　よろしいでしょうか。
　時間も押してますので、議題の３番で、その他という事で、何かこの際でございますので、いかがでしょうか。

○清水委員
　全然関係無い話なんですけど、先月、出張で東京ビッグサイトに行きまして、トイレ入りましたら、男女共用トイレだったんです。
　右も左も個室ばかりでして、驚きました。
　その時は、誰も入っていなかったから、良かったんですが、女性とこうぶつかったりすると、非常に嫌な感じになるんですけど、今そういうのが、公共の建物をつくる時に、男女共用トイレをつくらなきゃいけないとか、或いは小中学校のトイレで、そういうような問題が出てるのかどうかっていうのが、ちょっと知りたかったんですけど、これは総務省の関係かもしれませんけど、そういうような通知等は、一切ないんでしょうか。

○山下市長
　現場でも、ちょっとそういう配慮した、ＬＧＢＴの関係も配慮したトイレを学校で見せていただいたことがありますので、整備の中にあっても、そういう子たちがいますので、社会的にはそういう配慮が必要ですし、今は男性も座って用を足す時代になっていますね。

○清水委員
　色々なサービスエリアとか、観光地では女性をトイレ少ないので、増やしますというような手法では駄目なのでしょうか。

○山下市長
　何か教育委員会的にどうでしょう。

○森教育長
　学校は、誰も使えるようなトイレが１個あって、あとは男女別のトイレになっています。
少し広めのトイレで、車椅子でも入れるようになっています。

○米山委員

私の母校で、同窓会の関係で、神奈川に新しくオープンした学校を見てください、ということで案内されて会議が終わって、トイレ行って探したら、男女兼用トイレが一つしか無かったんです。

男性、女性と分けられてないところに入ったんですけど、もう大学のその建物の中は、今仰った理由かもしれないですが、そんな環境になっていました。

教員時代に、あるＬＧＢＴの生徒を対応したこともありまして、どちらのトイレを使うのかと、職員が大分、頭を悩ましたんですが、結局、職員用トイレを利用するという事になったりしたんですが、やはりこれから時代はそういうことも、考えたトイレが必要になると言う事なんですかね。

○山下市長

トイレに限らず、多様性とかの受け入れをしていかなければならないですよね。アレルギーについても、発達障害も、色々なものを皆が受け入れていくという事が必要なんでしょうかね。

その他、よろしいでしょうか。

それでは、私の進行の部分は終わらせていただきます。

ありがとうございました。

○岩井教育委員会事務局長

それでは、以上をもちまして、令和８年度第１回総合教育会議を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。